

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和3年5月14日
＜第3号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第5回教科等指導力養成講座

令和3年3月13日（土）に第5回教科等指導力養成講座を行いました。

高瀬主任指導主事の挨拶では、特別教育実習における一人一人の経験や学びを次に生かすためには、「振り返り」が大切であるという話がありました。

塾生は、12月から3月までの特別教育実習について振り返り、自己評価をしました。そして、教授との面談を通して、各自の成果と課題を明らかにしました。4月から塾生は、課題に正対した改善策を具体的に実践していくことで特別教育実習の充実を図っていきます。

【全員共通】

「教師の魅力と責任②」の講座では、服務事故の状況や事例を基に、服務に対する理解や未然に防止するための方策についての講義・演習がありました。

塾生は、講義・演習を通して法令等を遵守するとともに、自らの行為が児童・生徒の成長に大きな影響を与えるという職責の重要性を常に念頭に置くことが、大切であることを学びました。また全体の奉仕者としての誇りと責任をもって自己の職務を全うし、児童・生徒、保護者、都民等からの期待に全力で答えるように努めていく必要があることを確認しました。

【小学校コース】

理科①の講座では、理科で育成を図るべき資質・能力や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の視点についての講義がありました。塾生は、児童が自然の事物・現象に関心・意欲をもち、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を基に結論を導き出す過程の中で問題解決の力を育成することを学びました。

学級経営②の講座では、学級経営の充実を図るためのポイントや具体的な方策について講義や演習を通して学びを深めました。塾生は、講義・演習を通して、学級集団としての質の高まりを目指したり、教師と児童、児童相互のよりよい人間関係を形成しようとしたりすることが、重要であることを学びました。

特別活動①の講座では、特別活動及び学級活動の目標、特質、内容について実践例を紹介しながらの講義・演習がありました。特に実際の指導場面を視聴しながら、学級活動の1単位時間の流れについて学んだことで、塾生は、学級活動の授業のイメージを明確にもつことができ、指導のポイントの理解を深めることができました。

【特別支援学校コース】

各教科等を合わせた指導③の講座では、生活単元学習に大切な4つのポイントや単元づくりの手順、また社会性の学習の目標や教育課程上の位置付け、実際の指導例から社会性の学習の流れについての講義がありました。塾生は、同じ題材においても生活単元学習と社会性の学習では、ねらいや手だてが変わることを実践例を通して学びました。

教材づくり①②では、十文字女子学園大学特別招聘講師の信方氏をお招きし、PCを活用した教材づくりの魅力や活用方法についての講座がありました。講義の後半では、実際に電子紙芝居の作成体験を通して、活用のポイントと留意点を学ぶことができました。



<理科①>



<特別活動①>



<教材づくり①②>



<班別協議>

【塾生の感想より】

- 1人の教師の不適切な行動が多くの人に影響を与えることを確認し、教師の責任の重さとその自覚の重要性を学んだ。
- 理科①の講座では、問題解決の学習過程に沿って単元計画を立てることを学んだ。また自然事象に対する気付きの場面でどれだけ児童を惹きつけられるかが、学習に対する主体性に関わることをについて理解を深めることができた。
- 「学級経営②」と「特別活動①」の講座を通して、児童が主体となって学級活動の内容を作ることを学んだ。学級活動の話合いは、事前の準備が大事であることから、今後実践する際は、議題集めから学級会当日までの段取りを念入りに行い、話合いがスムーズに進むようにしたい。

●第6回教科等指導力養成講座

令和3年4月17日(土)に第6回教科等指導力養成講座を行いました。

まん延防止等重点措置の適用に伴い、講座内容の配信動画の視聴とビデオ会議サービスの活用による班別協議に代替しての開催となりました。

高瀬主任指導主事の挨拶では、「体育の授業実践を行う時には、友達や先生とのかかわりを豊かにすること」、「基本となる運動のコツやポイントを教えることを大切にすること」、「達成感を味わわせる視点を大切に授業づくりを意識すること」という体育科における授業づくりの視点についてのお話がありました。

【全員共通】

午前は、配信動画「体育の授業づくりのポイント」、「体育活動における安全確保～安全管理・安全指導について～」を視聴しました。塾生は、子供たちの豊かなスポーツライフの実現に向けては、体育科の見方・考え方を働かせた授業づくりや、運動の特性を意識した授業づくりが重要であることを学びました。また、体育の学習活動を安全に実施するためには、学校や教師が義務として行う「安全管理」と、子供に指導する「安全指導」の両輪が必要であるということも学びました。

動画の視聴後には、配信動画の内容に基づいて班別協議を行いました。協議では、「跳び箱の段数を示す数字が片面しかない理由を初めて知った。」「定期的に施設を点検することで安全な体育学習を実施していきたい。」という話があり、体育科の指導における実践的な内容についてのイメージを高めていました。

午後は、配信動画の視聴とビデオ会議サービスの活用による班別協議を実施しました。

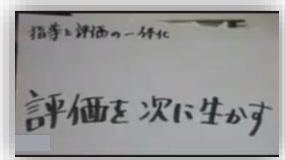
塾生は、動画視聴と演習を通して、学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点や、観点別評価の手順、指導と評価におけるPDCAサイクルの重要性について学びました。

ある班別協議では、「『おおむね満足できる』基準の設定が難しい。」という塾生の言葉から、協議や教授の解説を通して、学習指導要領や教科用図書の確実な理解、児童理解が大切だという話につながりました。

「評価を次に生かす。」という塾生の力強い言葉も聞くことができました。

東京教師養成塾では、「社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉え、実践的な指導力や企画力を高める教師」を目指す教師像の一つに掲げています。今回の講座は、オンラインによる開催となりましたが、次代を担う教師の卵である塾生にとって、このような形での受講や協議は、GIGAスクール構想の充実、推進を図る上でもよい経験になると考えています。

東京教師養成塾では、塾生の学びを止めないよう、創意工夫をしながら塾生の資質・能力の育成に向けて取り組んでいきます。



<ビデオ会議サービスによる班別協議の様子>

<塾生の決意>

【塾生の感想より】

1 体育について

- 子供が運動との出会いを楽しめるように工夫することを自己の課題として設定したい。
- 体育では、器具や用具の特性、なぜ体育帽をかぶるのかといった理由を理解し、安全で適切な指導を行うことを課題とする。

2 指導と評価について

- 評価は児童の通知表を作成するためのものではなく、教師が授業を改善するためのものでもあると学んだ。
- 自分の授業について評価することを課題とする。その課題解決のために、授業を振り返り、よかった点や反省点、次に生かしたい点を明確にしたい。

3 特別教育実習に向けて

- 特別教育実習では、指導することだけでなく、評価することにも目を向け、担当の指導教員の先生の子供との関わり方や授業中の言葉掛けをしっかりと学んでいきたい。